

会 議 録

会議の名称		令和7年度第5回守谷市地域公共交通活性化協議会		
開催日時		令和8年2月27日（金） 開会：午後2時　閉会：午後5時10分		
開催場所		守谷市役所 議会棟1階 中会議室		
事務局(担当課)		都市整備部 都市計画課		
出席者	委員	佐野委員、有原委員、佐藤委員、小路委員、椛澤委員、爲我井委員、中島委員（会長）、寺田委員、宮野入委員、泉委員、柿本委員、服部委員、廣瀬委員、芳賀委員、浅野委員、石塚委員、根本代理 以上 17名		
	市職員	笠川課長、岡本補佐、末森係長、中山主任、中野主事 以上 5名		
公開・非公開の状況		<input checked="" type="checkbox"/> 公開 <input type="checkbox"/> 非公開 <input type="checkbox"/> 一部公開	傍聴者数	1名
会議次第		1 開会 2 会長あいさつ 3 副市長挨拶 4 議事 (1) 協議事項 議案第1号 謝礼に関する規程の一部改正（案）について 議案第2号 モコバス無料デーの検討について (2) 報告事項 報告第1号 予備費の充当について 報告第2号 委託業務の進捗状況について (1) 守谷市内公共交通に関する調査内容について ①まちづくり協議会アンケート調査内容（案） ②交通事業者・送迎バス運行企業アンケート調査内容（案） ③市民ワークショップ開催計画（案） (2) モコバス及びデマンド乗合交通の現状と課題等について ①モコバスの現状と課題について ②デマンド乗合交通の現状と課題について ③新たな移動手段について 5 その他 6 閉会		
確定年月日		会議録署名		
令和8年3月30日		中島 伸一		

審 議 経 過

1 開 会

2 会長あいさつ

3 副市長あいさつ

4 議 事

(1) 協議事項

●議案第1号 謝礼に関する規程の一部改正(案)について 【資料1】

【事務局から説明】

【採決の結果、全員賛成により承認】

●議案第2号 モコバス無料デーの検討について 【資料2】

【事務局から説明】

○意見・質問等

爲我井委員：実証ルートにおける無料デー実施は、新しいルートができたことをPRするという点で非常に良いと思う。あらゆる広報手段を使って是非進めてほしい。

小路委員：後ほど資料5にて実証運行も含めたモコバスの現状の説明がある中で、全体像が分かっていない状況で無料デーだけを議論しづらい。

【事務局から説明 ※資料5(実証運行ルートについて)】

小路委員：現状実証運行ルートの利用者は、1便あたり約1人とかなり少ないが、その原因や、促進のために何が必要かというような現時点での想定はあるか。

事務局：実証運行については、広報紙とHPに載せているが、知らなかったという人も多いと想定している。無料デーの打ち出しによる周知、利用促進を図ればよいと考えている。

小路委員：パークシティ守谷でどれくらいの人数が乗り継ぎをしているか分かるか。また、起終点であるパークシティ守谷は通過することが出来ず、乗り降りが発生することにより料金がかかってしまう。本来は循環ルートなので連続して乗る方も多と思うが、料金設定はどうなっているのか。

事務局：他のモコバス路線であれば、乗継券の利用により無料で乗り換えが可能である。一方、実証運行ルートの右回り・左回りで乗継券を有効としてしまうと、復路の料金が取れないことになるため、同路線への乗り継ぎは不可としている。市としても具体的な検討は進めていない。また、乗継人数の集計は出来ていないが、運賃収入額としては少ない。

- 泉 委 員：通勤難民を考慮するべき。10～15 時の運行では利用者が少ないので、難しいとは思いますが、朝や昼といった需要のある時間帯に変更するのはどうか。1 便に 1、2 人しか乗車していないなら実証運行の意味がないと思う。無料デー自体は良いと思うが、運行時間帯を変更しながら今後の動向を見ないと、無料デーを開催したところで実証運行ルートの宣伝に繋がらないのではないかと。また、宣伝効果について、実際に広報紙を見ている人は 1～2 割であるため、周知の取り組みが重要となる。
- 佐 野 委 員：実証運行ルートは、パークシティから守谷 A 地区に伸びる道路を通るが、奥山本田や愛宕の住民はそのバス通りまで徒歩 15 分程かかる。運行時間帯が 10～15 時台だと、夏場は高齢者にとって外出が危険な時間帯であるため、現実的には厳しい。上手に使えばいい路線だと思う。
- 小 路 委 員：先ほどの乗り継ぎの話がわからなかった。パークシティ守谷で乗り継ぐ際に料金を取る必要があるのか。もしくは、料金を取らないようにはできないのか。また、右回りと左回りが、パークシティ守谷を挟んで完全に区切られるというのなら、別途乗り継ぎ用の券等が必要ではないか。
- 佐 野 委 員：パークシティ守谷を通過して目的地へ向かう場合、バス運転手に確認したところ、400 円の日券を購入してはどうかと教えてくれた。
- 廣 瀬 委 員：往復で 400 円が基本なので、200 円で往復できてしまうとおかしいのではないかと。
- 服 部 委 員：パークシティ守谷で一旦精算することなく通過したい、これを 200 円でできないかという意味合いではないか。現状は、一度下車し、次の便に乗り継ぐ必要があるにもかかわらず、同じ路線であるために乗り継ぎ券を使用できない。
- 小 路 委 員：実証運行ルートは、料金だけでなく、時間帯やルートなどいろいろな課題がある。まずは、このような課題を全体的に議論すべきであり、個別に無料デーのみ取り上げるのはおかしいのではないかと。また、現状に課題があるうえで、来年の運行はどうする必要があるかについて議題になっていないのも問題である。
- 事 務 局：まず、時間帯の変更可能性については、朝夕の時間帯は運転手が確保できない状況にある。また、ルートに関しては、集落の中に入れないか、違うルートを通れないかといった要望はあるが、現状は安全な通行が可能なルートを走行している。今後も可能な限りで検討をする。
- 浅 野 委 員：イベント主催側の運行費用に関する支援予定はないということで、イベントに伴う無料デーについて今回は実施しないという方向性で問題ないと議論を区切ったうえで、実証ルートについては、資料 5 のモコバス全ルートの現状報告を踏まえて検討した方が良いのではないかと。
- 中 島 会 長：まず、モコバス全ルートについて現状を報告いただき、実証ルートのみ無料デーを実施するのか、既存ルートも含めて実施するか、またその実施期間も踏まえて無料デーを行うか審議する必要がある。

【事務局から説明 ※資料 5（既存ルートについて）】

小路委員：実証運行ルートは利用者数が少ないため、モコバスの運賃収入を加味してもかなり税金が投入されていると思うが、1人1乗車あたりのコストはどれくらいか。ある程度の公的な補助は必要であるものの、全体のコストを考慮し、場合によっては実証運行以外の手段（タクシー補助等）を検討する方がよいのではないかと。

事務局：委託業務の中で、現状の課題やのちに必要となる対応を整理しており、今回はその中間報告となっている。費用対効果についても考慮する必要がある。1人当たりのコストが高いからといきなり現状の取組を切り捨てるわけではなく、調査検討の中で結論付ける予定である。また、令和6、7年度における1人当たりのコストについては、次回以降試算し情報提供する。

中島会長：無料デーにかかる費用の説明がないが、考えてはいるか。予算はどれくらいか。

事務局：無料デーの実施コストについては、議案第2号の参考資料に記載している。令和7年度、イベントを実施した4日間の運賃を無料にした際の費用は、実績ベースで46万7,600円である。また、令和8年度の見込額（例年と同様の実施かつ実証運行ルートについてはバスを貸切った場合の試算）は、108万3,600円である。資料に記載はないが、実証運行ルート（1便につき1.3人乗車）を1か月無料とした場合のコストを試算すると、4万1,600円（無料デーにつき通常の2倍の乗車数と仮定した場合：8万3,200円）である。また、3ルート全てを1週間無料とした場合の概算（実績ベース）は、29万9,780円（2倍の乗車数で59万9,560円）である。先ほど小路委員の仰っていた1人あたりのコストについては、運賃収入を差し引かないトータルコストは令和6年度で約4,330万円であり、これを1人1乗車あたりに換算すると618円である。

小路委員：全ルートのデータ以外に、路線別の試算もあれば良いと思う。

事務局：今後も、必要な数値やデータ、依頼したい分析等があれば、用意するので言っていたきたい。

小路委員：そもそも、無料デー実施時のお金の動きが分からない。モコバスは市が運営し、運行は関東鉄道に委託しているが、無料デーを実施した場合、運賃収入が無くなる分はどうなるか。

中島会長：無料デー実施における本協議会の負担額について簡潔に説明がほしい。運賃が入らないが、1か月実施した際にトータル何円かかるのか、バスを貸し切って実施した場合はいくらか。また、予算108万3,600円で1か月実施することが可能なのか。

事務局：運賃を無料にした分を協議会が補填するということである。補填額は、本来の料金見込み分である。

中島会長：あとは、無料デーは実証ルートで1か月実施するか、他の2ルートも含めて実施するかをご審議いただきたい。

泉委員：モコバス無料デーの実施費用として、令和8年度見込108万3,600円とあるが、イベントに際した無料デー実施を取りやめた場合、この金額は減るのか。

事務局：令和8年度見込額には、イベントに合わせた4日間の無料デー実施に加え、通常平日しか運行していない実証運行ルートについて、土日に2日ずつバスを借りて走らせた場合の費用が含まれる。また、この概算はあくまで予算上の話であり、予算内であれば他の2ルートの無料デーを実施することも可能である。

爲我井委員：イベント時の無料デー実施については見送るが、実証運行ルートについては認知度向上のため1か月程度実施予定であり、この実証運行ルートにおける無料デー実施の費用は令和8年度見込みから流用するという提案だと思う。

寺田委員：他の2ルートでも無料デーを実施する場合はもっと費用がかかるのか。

事務局：その場合また違う算出にはなるが、予算内に収まれば実施可能である。

中島会長：実証運行ルートについて、土日にバスを借りての無料デーは実施予定か、それとも予算計上のための施策か。実施する場合は今後バス会社に委託の変更をかける必要があるが、資料には施策を実施することが決定しているように記載されている。厳しいように見えるが、予算は通せるのか。

事務局：予算については10～11月に計上する必要があったため、この金額はあくまで4日間のイベントに合わせて無料デーを実施する際の概算費用の算出にすぎず、加えて新たなルートが増えたので、その分を見越した予算の立て方をしている。今のバス会社との契約の中では実施できないため、実施が決定した場合は新たな契約をする必要がある。

中島会長：計上するにあたって議会に通す場合、委託変更も含めて検討するという形とするのか。

事務局：本日決定した場合は、協議会ではこのように動いているという報告になる。

浅野委員：この場で具体的に何を実施し何をやめるとするのは決まらないと思うので、本日は無料デーを「やる」「止める」といった方向性を定めるのが良いのではないか。

中島会長：予算の中で、今後モコバス無料デーをどのような形式で実施するかを検討していくということでお諮りする。よろしいか。

【議論の結果、次回に持ち越し(一部決定:イベント時の無料デー取りやめ)】
後日、事務局にて頂いた意見を元に案を作成する。

(2) 報告事項

●報告第1号 予備費の充当について 【資料3】
【事務局から説明】
【全員異議なし】

●報告第2号 委託業務の進捗状況について 【資料4】

(1) 守谷市内公共交通に関する調査内容について

- ①まちづくり協議会アンケート調査内容(案) [別紙1]
- ②交通事業者・送迎バス運行企業アンケート調査内容(案) [別紙2]
- ③市民ワークショップ開催計画(案) [別紙3]

(2) モコバス及びデマンド乗合交通の現状と課題等について

- ①モコバスの現状と課題について 【資料5】
- ②デマンド乗合交通の現状と課題について 【資料6】
- ③新たな移動手段について 【資料7】

【事務局から説明（資料4）】

○意見・質問等

中島会長：説明にあった、まちづくり協議会委員への依頼とは何か。

事務局：アンケートの配布方法について、委員の皆様には配布のご協力をお願いしたい。

小路委員：アンケートは、何故まちづくり協議会委員が対象であるのか。公共交通を実際に使っている人の意見を聞く方が良いのではないかと。また、アンケートの内容について、一般的な話のみでなく、今後の市としての方向性を示さないと意味がないのではないかと。と思う。

事務局：市民のニーズの把握手法として、アンケートだけではなくワークショップを開催することで対応していく予定である。内容については、コンサルと相談し作成した。

小路委員：公共交通をもっと必要としている方、使いたい方、使えなくて困っている方の意見を拾うべきではないか。

事務局：別途Webアンケートを作成し、市民の皆様にも周知をしてご意見をお寄せいただく予定である。また、公共交通の計画策定につなげる目的も踏まえたいので、障がい者団体等にも声掛けし意見をいただくことを考えている。

石塚委員：委員本人だけでなく、委員を通してそのご家族や近隣の方で公共交通を必要としている、今後必要となる方に、回答をお願いできたら良いのではないかと。対象を他の団体に広げるのも良いが、まちづくり協議会とその関連者にアンケートを依頼するのは良いと思う。

事務局：まちづくり協議会を通じて、利用者や現在困っている方、不安を抱えている方にアンケートの存在を広めていただければと思う。市民の方にはWebアンケートを予定しているが、できる限り周知して回答をお願いしたいと考えている。

小路委員：ワークショップは市で完結させるのか。公共交通そのものだけでなく、福祉や教育等との連携を考えないと良い交通にならないのではないかと。

事務局：全てが公共交通の範囲で受け持てる内容ではないので、今後公共交通と福祉の考えは分けていく必要がある。

【事務局から説明（資料6、7）】

○意見・質問等

小路委員：デマンド乗合交通や新たな移動手段に関する報告事項について、現状の改善案や他市の事例等が記載されており、これらについて今後検討していくと思うが、先ほどのアンケートでは一般的な内容しか載っていなかった。市民の意

見について聞いておくべきではないか、検討してほしい。また、送迎バスの活用として、単なる混乗ではハードルが高いと思うが、送迎と公共交通のどちらも満たすものとしてどのように考えているのか。

事務局：課題や今後の対応については、あくまで中間の報告であり、今後アンケートや他の情報を含めて考えていく予定である。また、事例紹介についても必要に応じてヒアリングすることなども考えている。スクールバスへの混乗等、現状難しい案もあるが、事例も含めて模索し、可能性が出てきた時点で協議会に諮る予定である。

爲我井委員：デマンド乗合交通について、1組での利用が77%とあるが、何らかの理由（障がい等）で1人でなければいけない可能性はないのか。現状の改善案として増車や車両の大型化を挙げる前にこの点を考えてほしい。

中島会長：デマンド乗合交通は利便性が非常に良いため、これをなくすと市民からの反発が大きいと考えられる。乗合率を高めることで利用できる人数も増えるが、自宅から目的地まで送り届けているのが現状である。この現状を変える具体的な施策（例：自宅から出発する必要がある場合は福祉のためのチケットで乗車／それ以外の条件であれば、年齢制限等を失くすのであれば共通乗降場から乗合乗車）を協議会の場で共有し、その具現化について審議することによってより良い公共交通を目指すべきではないか。

5 その他

【今年度最後の協議会につき、事務局よりご挨拶】

6 閉会